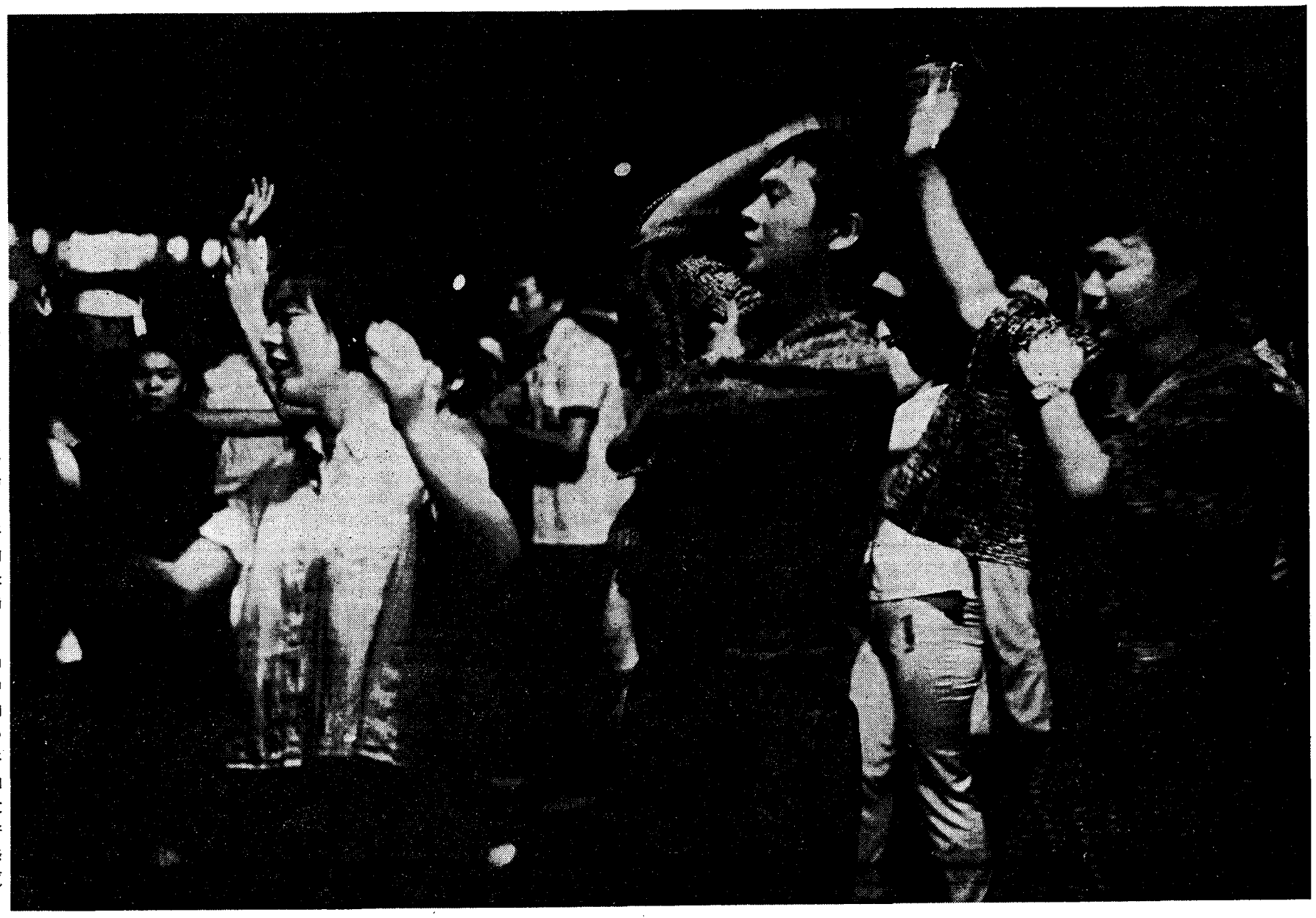
うたごえ新聞

編集　日本のうたごえ実行委員会
発行　うたごえ新聞社
東京都新宿区西大久保3の67
電話（200）0101～5

1部20円（一部読者は〒共6か月420円）

主な記事

2面　第一回西南コーラスの演奏会を聞いて、みんなの愛唱歌「ヒロシマ」。楽譜「ヒロシマ」
3面　東京・文京みんなうたう会。太田・羽田うたう会。
4面　東京・江東区みんなうたう会。楽譜「黒潮盲頭」
5面　67自治体のうたごえ祭典ひらく。遊びたい、自由になりたい＝かわずうたう会。
6面　第5回全国うたごえ教育活動者講習会のよびかけ。楽譜「百里基地反対 かぞえうた」（大漁節かえうた）



（夜ふけまでつづく平和盆踊り＝山中湖の平和友好祭で）

世界にひびけ！ベトナム支援の大合唱

67東京のうたごえ祭典ひらく

六七年東京のうたごえ祭典は、7月28日の創作発表会にひきつづいて、30日午後六時から日比谷野外音楽堂でひらかれました。

祭典は「ジェット機とばすな砂川から、ベトナム反対のうたごえを街から職場から」「原爆許すまじ」「被爆者に救援の手を」「革新のいぶきおはよう東京を一千万都民のものに」のスローガンをかかげ、全都から四千名をこえる人びとが参加し、第十三回原水禁世界大会の前夜にふさわしく、海外代表、被爆者、さらに第十三回日本母親大会に参加したお母さんたちも加わって、ベトナム支援のうたごえを、世界の空に向って声高らかにひびかせました。

祭典は東部青年合唱団による深川木場の「木やり」で高らかなそのうたごえの幕を開けました。つづいて中部のうたごえによる「おはよう東京」は、合唱団白樺集団創作のふりつけのおどりに、中部の仲間がブルーのハンカチを一せいに打ちふり、都知事選をかちとり、明るい革新都政をきずく決意をうたいあげました。

自治体、金融の娘さんたちは、そろいの黄色いネッカチーフ、自労のおばさん、おじさんたちは健保改悪阻止の斗いの中から「世なおし音頭」をもって力強く訴えました。

「新島太鼓」（港湾）「えの目のえびす太鼓」（土建）「八丈島太鼓ばやし」（中央合唱団）「馬鹿ばやし」（国公）と、くりだす太鼓のひびきは、やぐら、正面舞台、中央舞台と処をうつして、会場の目と耳をうばいました。チャイコフスキーの「白鳥の湖」を第二回全国活動者講習会の成果をもとに初演したアコーディオン合奏、アンコールのなりやまなかった滝沢三重子さんのソプラの独唱、合唱団白樺「泉のほとり」のうたとおどり、基地拡張阻止の決意をうたう中心合唱団合同の「砂川」、土建と民青のプラス合同で「南ベトナムを解放しよう」。都知事美濃部さんはじめ沖縄青年合唱団、新日本婦人の会中央本部、共産党野坂参三、わらび座、統一劇場などたくさんの団体、個人からの祝電ひろう一つ一つに大きなよろこびの声があがります。

来賓には日本原水協と日本共産党代表および第13回原水禁世界大会国際代表ブリンクさん（デンマーク）があいさつ、ブリンクさんは「私たちは原水爆禁止と平和のために討議しようとしてやってきました。みなさんのうたごえが平和のために大きな力になっていることを確信しています。いっしょに第13回原水禁世界大会を成功させるためがんばりましょう」とのべ、会場いっぱいの拍手をうけました。「原爆を許すまじ」を関先生の指揮、来賓、東京被爆者団体国公、政労協の仲間たちがともに腕をくみ会場と共にうたいました。

朝鮮東京歌舞団のうたとおどり、祖国帰国協定の無条件延長の訴えにこたえて、西部のうたごえのうたごえ交流会を成功させました。また、食品の仲間は、休みの日にはかならず新しい職場に入り舞台をつくりあげた一人ひとりの中に『なくそ、まけるものか』という腹の中でのふんばりがあらわれていました。

職場のうたごえも、全金プリンスをはじめ、金属、マスコミ、土建、郵便、電通など、きびしい合理化、しめつけのなかで職場の要求と結びついてうたいひろげてきた力と楽天的な明るさをいかんなく発散させ、しめくくりに中心合唱団合同「返せ沖縄」第六章に祖国の独立とベトナム人民との連帯の決意をうたいあげ、大成功のうちに閉会しました。

なお、当日、ベトナム人民支援、原爆被災者救援、うたごえ資金カンパには七万七千円をこす金額が集められました。

「初参加の仲間たち、舞台に上っていっしょにうたおう」のよびかけでかけ上ってきた若者たち娘たち、さしもの大舞台もいっぱいになって「赤トンボ」をうたいました。

とくに職場での激しいアカ攻撃活動家への合理化としめつけは、舞台をつくりあげた一人ひとりの中に『なくそ、まけるものか』という腹の中でのふんばりがあらわれていました。

うた新行動隊出動

静うた祭典に取りくむ中で、うた新行動隊を準備しました。当日9合唱団から10名が行動隊に参加し。受付横に本部をもうけ、うたごえカレンダーを売りました。祭典に集まった仲間に真剣に訴える中で20部のうた新をうり、4名の読者を拡大しました。

夜ふけまで太鼓のひびき

山中湖の平和友好祭

第九回日本青年学生平和友好祭中央祭典が、平和友好祭中央実行委員会の主催で七月十五日から三日間、山梨県の山中湖畔で開かれ沖縄をふくめた四十三都道府県の実行委員会と、九十六の労組・民主団体から約四千名の青年学生が参加しました。

十六日夜おこなわれた、文化祭典では、わらび座、民青文工隊などとともに、三多摩青年合唱団、東部青年合唱団、東交・金融・電通・郵便・マスコミ・政労協・土建・東部・三多摩のうたごえ、アコ科などが出演し、ひきつづいて平和盆踊り、ダンスパーティーが開かれ、明るいうたごえが、夜のふけるのもわすれて湖畔にひびきわたりました。

「合理化」にひるまず

千七百名で静岡のうたごえ祭典

【静岡合唱団なかま発】第九回静岡のうたごえ祭典が、去る七月十六日、静岡市駿府会館で千七百名が参加して開かれました。

会場からは始終声援や手拍子がおこり、なごやかな雰囲気の中に祭典が進められました。

特別出演のバリトン歌手、坂本博士さんは、「音頭の舟うた」「斗牛士のうた」など、すばらしい独唱をきかせてくれ、会場をうっとりさせました。

この日、同じ駿府公園内で自衛隊のレインジャー訓練が行なわれるという攻撃にもひるむ事なく、私たちの団結の力、うたごえは、公園のすみずみまで響きわたりました。

この祭典をとり組むなかで、国公は自標を達成し、交流会を開き国公共斗を建てなおしてゆく大きな力になり、医療では中心活動家がぬけてしまったところでも、若い一人ひとりの力で、県下の医療の仲間たちとともに「祖国」をうたいます。